

平成24年度

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472000932	事業の開始年月日	平成16年6月1日
		指定年月日	平成22年6月1日
法人名	有限会社 ヒューマンライフサービス		
事業所名	グループホーム 悠悠苑平塚事業所		
所在地	(〒254-0012) 平塚市大神2108-1		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成24年12月20日	評価結果 市町村受理日	平成25年4月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自分の事を分かってくれる人が、いつもそばにいてくれる「我が家のような安心感」を持って過ごして頂くために、スタッフは、ご利用者様の関係作りのお手伝いをしています。 明るく家庭的な雰囲気の中で、今までと変わらない生活・地域との交流を大切に「笑顔あふれる日々」を提供出来る様、ご利用者様・ご家族から学ぶ姿勢を常に持ち、ケアの向上に努めます。
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年1月25日	評価機関 評価決定日	平成25年4月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】 この事業所は、JR平塚駅または小田急線本厚木駅からバスで20分、バス停から3分程の、畑や住宅が混在する静かな所にある。地域の防犯を行う「子供みまもり隊」に入り、職員と利用者が協力している。近くには寄木神社、スーパーマーケットもあり、利用者が散歩や買い物に出かけている。建物はエレベーター付きの鉄筋2階造で2ユニットのグループホームである。9年目に入り充実した運営をしている。 【理念に基づいたケア】 開所時に理念として「ゆったりと 心穏やかに 尊厳を大切に 笑顔溢れる日々」を掲げ、職員に浸透させている。職員は自身の笑顔が利用者の笑顔のもととなるよう心がけてケアを行なっている。利用者が重度化してきているが、出来る人が食事作りの手伝いをしている。また、時々行なう「レクレーション食事作り」では、自分達でメニューを考え、食材を買い、調理するなどして楽しんでいる。感染症予防のため、湿度管理をすることを目標に決め、湿度計を見て加湿器のほか、濡れタオルなどで管理を徹底して行ない、利用者が風邪を引かず、健康を維持できるように、職員が一丸となって努力している。 【ターミナルケアの実践】 重度化対応の指針に基づき、入居時に同意書を貰っている。その状態になった時には家族、医師、事業所が話し合い、同意を得てターミナルケアを行なっている。今年度は看取り例が2件ある。家族の一員としての対応をすることを方針としており、重度の方も皆と一緒にリビングで過ごし、他の利用者や職員と触れ合っている。身寄りのない方の葬儀をグループホームで行ない、皆で見送りをした。また、その後、職員と対応について話し合うなど、職員自身の精神ケアも行ない職員に自信を持たせるようにしている。 【運営推進会議の充実】 2〜3ヶ月毎に行なう運営推進会議をリビングで行ない、参加者は利用者と交流し、様子を見てもらい、意見交換を行ない運営に活かしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム苑平塚事業所
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の申し送り時に、復唱している。また、名札の裏に記載し、いつも確認できるよう配慮している。職場同志でも、常日頃から理念に基づき、笑顔で穏やかに過ごせるよう実践している。	開所時に作成した事業所理念「ゆったりと 心穏やかに 尊厳を大切に 笑顔あふれる日々」を事務室、廊下に掲示している他、職員の携帯している名札の裏に記載している。入職時研修、朝の申し送り時に確認し、共有している。職員も笑顔を忘れないように、また、ゆったりとした対応をするように理念を意識した介護を行なっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物・散歩時等でお互い挨拶を交わしている。公民館行事・自治会行事・子供みまもり隊等、積極的に参加させて頂いている。また、近隣の幼稚園・保育園との交流・中学校の職場体験の受け入れをしている。	大神第二自治会に賛助会員として加入し、利用者と一緒に、街ぐるみの大掃除や「子供見守り隊」に参加している。民謡ボランティアが来訪して一緒に歌を歌ったりしている。近隣の幼稚園や保育園の子供達、授業の一環として来所する中学生とも交流している。法人のデイサービスを会場にした「悠悠苑まつり」では家族に模擬店を手伝って貰い、地域への呼びかけで住民100人が来場した。事業所の餅つきには通りがかりの地域の人ちも立ち寄ってくれた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	道路に面して入りやすい併設の居宅支援事業所を窓口にして、地域の方が見学・遊びに来られ案内している。一緒にお茶を飲んで頂く等、お話をして頂く機会がある。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1度開催、活動報告をしている。構成員と意見交換を行い、災害時の連携・地域との連携等、今後の苑のあり方等を検討、サービス向上に努めている。	運営推進会議は2～3ヶ月に1回開催し、地区自治会連合会会長、民生委員、社会福祉協議会会長、地域包括支援センター職員、家族代表、職員が参加している。会議では現況報告や災害時の対応等について話し合っている。会議の場所をリビングにして、参加者に利用者の様子を見て貰ったり、利用者手作りのおやつを食べて貰ったりして、意見交換を行ない運営に活かしている。		

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平塚市介護相談員を月1回受け入れている。社会福祉協議会主催のグループホーム連絡会に参加している。（介護保険課の方同席）	平塚市介護保険課のメールで感染症や研修の情報を得ている。生活保護受給中の方については生活保護課と連携している。市の介護相談員を招き、利用者の意見要望等を聞いて貰い、運営に活かしている。社会福祉協議会にはボランティアの紹介をして貰っている。	
---	---	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。日中は、玄関を開放し、自由に出入りしている。緊急時、一時的に施錠を行う事があるが速やかに開放している。	玄関は日中、開放している。1階、2階とも、ユニット入口には開閉時にチャイムが鳴るようにしている。また、「出かける時は声かけて」という張り紙をして注意している。不意の外出を防ぐために見守りを注意深く行ない、利用者がいる場所を常に把握するように努めている。外に出かけたい利用者には職員が一緒に付き添っている。一人で出かける方もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自己点検シートで確認、特に精神的虐待にならないよう、ユニット会議・カンファレンス等で話し合い言葉がけには注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見人養成講座受講生の体験活動の受け入れをしている。権利擁護事業の制度（1名）、成年後見人制度（1名）活用しているが、すべての職員が理解するには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、ご家族・本人に説明し、理解・納得を図っている。改定等の際は、十分な説明を行い同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を聞き入れ出来る限り毎日の生活に反映させている。外部評価での家族アンケート結果をユニット会議で話し合った。平塚市介護相談員を月1回受け入れ、利用者の意見・要望を引き出して頂いている。	餅つき行事と一緒に家族会を開催して、その際に意見や要望を聞いている。運営推進会議でも、出席してもらった家族から意見などを聞いている。外部評価の家族アンケートの結果について職員と話し合い「コミュニケーションは挨拶から」を今年度の方針にして徹底するようにした。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面接等を行って意見を聞いている。ユニット会議にて、管理者会議の報告、意見や提案の把握に努めている。	ユニット会議や年2回の個人面談で意見・提案を聞く機会を設けている。管理者は日常的に職員から意見を聞けるように働きかけている。リーダーが意見を集約して管理者に伝えることもある。職員の提案はケアプランに反映している。職員も管理者にケアの助言を求め、実践に活かしている。	
12	○	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議で職員からの要望・意見等、話し合う機会を設けて給与水準等、労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。ユニット会議で研修報告、介護技術等、研修の振り返りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市のグループホーム連絡会の定例会・事例発表会。地域介護システム会議主催の研修会に参加している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添い話を聞く場を常に設け、傾聴し共感し、不安を解消するよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や電話により、家族等の不安や要望に耳を傾ける機会を作り信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等の話・介護経過をよく聞き、カンファレンスを行い、ケアプランを立てている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は、本人にして頂き、役割を持って生活し、協力し合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を密にして、電話をする機会を作る、面会に来て頂く、行事に参加して頂く等、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人から家族へ電話を掛けたり、知人・友人へ手紙を出したり、外出したりしている。 行事への協力を依頼して面会の機会を作っている。	馴染みの人や場所は入居時のアセスメントや日常の会話、家族からの聞き取りで把握している。 利用者が家族に電話をしたいと言う時には支援し、家族、友人からの電話の取り次ぎをしている。以前からの馴染みの美容院に行く利用者の送迎もする。正月には、年賀状を出す支援の他、利用者3名が帰宅して家族と過ごした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に仲介の立場で接している。落ち着く場所の提供・レクレーションへの参加を通して互いの関係づくりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真を贈ったり、管理者が、面会に行ったり電話等で経過を伺うなどしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望に添える様、様子・好まれる事・趣味等の把握に努めている。また、介護相談員を通して思い・意向を引出す支援をしている。	生活歴やアセスメント、会話から思い、意向の把握に努めている。意見の把握が難しい利用者については本人の様子、職員の経験から推測している。美術館に行きたいと希望があることを介護相談員から報告を受け、実現した。洋裁が好きという利用者に雑巾作りや他の利用者の服の裾上げをお願いした事例もある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・利用者との会話から、これまでの暮らしの把握に努め、その人らしい過ごし方の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の対応・会話等、生活の中で、現状の把握に努めている。変化等が見られた場合は、カンファレンス・ユニット会議・申し送り等で情報交換等を行っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当者を決め、より細かい観察に努めている。本人・家族の希望を取り入れ、ケアカンファレンスは、全員で行い介護計画を作成している。	入居時のアセスメントをもとに暫定計画を作成している。入居後に担当職員の報告、ケア記録をもとにカンファレンスシート（評価表）を作成し、会議で3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。見直しの際には主治医や看護師の意見も反映している。ケア記録を書く時に介護計画をすぐ見ることができるように、介護計画をケア記録の前にファイルしており、計画の項目に対応する記録は、分りやすいように青字で記載するよう工夫している。	介護計画に応じた記載方法は工夫されています。今後は、全職員に徹底すると同時に、さらなる効率的な記録する方法を検討されることを期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録・生活チェック表、申し送り等で情報を共有し、実践・介護計画の見直しに活かしている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスとの交流、併設の有料老人ホームとの交流、他ユニットとの交流等、必要に応じて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、公民館へ散歩、近隣の花畑等に出掛けしている。また、地域のボランティアによる民謡の会を開催している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医療により適切な医療を受けられるよう支援している。状態を医師に報告・状況に応じ家族との連携を取っている。入所前よりのかかりつけ医に受診する場合は、家族が同行し、受診内容は、職員と共有している。	協力医である内科、心療内科は隔週、歯科は毎週、皮膚科は随時往診がある。今までのかかりつけの精神科を受診している利用者もいる。眼科、整形外科の専門医の受診は家族が対応しているが、受診結果の報告を受けて情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師と連携を取り合い支援している。月2回、看護師の出勤があり、情報を伝え、相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、サマリーを作成し情報交換を行っている。また、お見舞い時・退院指導に同席させて頂く等、病院側から情報を提供して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についての家族・主治医・管理者で話し合い同意書を頂いている。主治医・家族と連携を密にし、管理者・看護師を中心に対応を検討している。	「グループホームにおけるターミナルケアの指針」があり、ケアの流れを説明している。重度化した場合には主治医と家族を交えて話し合い、看取りについての方針を決める。看取り介護についての同意書を得て、その計画書を作成して態勢に入る。今年度、2名の看取りを行なった。事業所としては、利用者は皆、家族の一員と考え、重度の方を他の利用者も見守るようにしている。亡くなられた後、職員とケアについて話し合い、精神的ケアも行なう等、職員に自信を持たせている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異物除去法等、勉強会を開催、個々に救急法等の講習会に参加しているが、全ての職員が実践力を身に付けるまでには、至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	苑内での避難訓練は、年2回、実施している。地域との連携を運営会議の際、話し合い、避難訓練に参加して頂いている。災害対策委員会を開催し、対策を検討している。	年2回、避難訓練を実施しており、内1回は平塚市危機管理課の指導の下に、起震車の体験や消火器の使い方等の訓練を行なった。今年度は夜間想定訓練をしていないが、災害対策委員会が中心になり、2階の利用者を想定して、布団を利用し避難する訓練を実施した。地域住民には「避難訓練のお知らせとお願い」を配布して、訓練への参加を依頼したが、参加はなかった。しかし、地域の人から火災時の協力について申し出があり、避難誘導した利用者の見守りを依頼した。地域の防災訓練に参加し、その際の避難所体験を事業所の防災訓練に活かし備蓄の食品を実際に使う体験をした。 水や缶詰、カセットコンロ、懐中電灯を事業所の1階テラスの倉庫に備蓄している。防災頭巾はすぐに取り出せるように浴室に置いている。	

自己評価	外部評価	項	目	自己評価	外部評価	
				実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に努力はしているが、完全ではない、職員間で注意しあい、声掛けの工夫が必要と思われる。	利用者に対して「トイレですか」というような、あからさまな声掛けはせず、自尊心を配慮した言葉遣いをするように心がけている。フロアでユニット会議をする際には利用者名をイニシャルで話をしている。また、誰でも目につく場所にある廊下のホワイトボードには、受診者名は同じ様に、イニシャルで記入している。介護計画、実施記録、投薬記録等はカードックスに入れており、利用者の名前が見えないように布で隠している。 個人情報のファイルは施錠できる事務所のキャビネットに保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを工夫し、本人の意思を引き出せるよう、自己決定できるように対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康管理・安全・安楽の確保に留意し、本人のペースを大切に対応しているが、十分ではない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ、本人の希望に沿って、支援している。清潔保持が出来る様、声掛けの工夫をし、更衣の促し、見守り・介助等、行っている。			

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いせずに声掛けを工夫し、利用者と職員が一緒に準備・片付けを行っている。また、お礼の言葉を必ず掛けている。	食材は業者に配達してもらい、ユニットごとに職員が調理している。利用者は職員と一緒に食器拭き等をしている。利用者と職員が同じ物を一緒に談笑しながら食事をし、見守りや声かけをしていた。3～4ヶ月に一度は、ラーメン店や回転寿司に出かける。クリスマスにはサンドイッチやオーダブルを、また寿司の出前をとることもある。週1回くらい「自由メニュー」として、食材を買いに出かけて皆で調理をしている。	
----	----	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を表にまとめている。水分量の少ない方等、好みの飲み物を提供、一人ひとりの状態を把握、記録し統一した支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り・介助等、本人の力に応じた対応を行っている歯科医の訪問医療を受け、口腔管理を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付け、排泄能力・排泄パターンを把握している。必要に応じ、声掛け・誘導している。	排泄チェック表を活用し、個々の利用者の排泄パターンを把握して声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。夜間、ポータブルトイレを利用している方が3名いる。他の利用者にも、パターンを把握して声かけを行う。腹部マッサージをして排泄を促すように支援することもある。トイレの後の手洗いのチェック表を作成して、感染症に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳・乳製品を取り入れ、食後、ヨーグルトを提供している。個々の状況に応じて、オリゴ糖を使用する・水分を多めに促す、運動・散歩の働きかけを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日・入浴時間を決めず、出来るだけ、希望に応じて入浴が出来る様、配慮している。拒否のある方には無理に勧めず、声掛けの工夫・タイミングに合わせ支援している。	入浴は原則として週2回、午後であるが、回数や時間は希望に対して柔軟に対応している。入浴をしたがらない利用者や重度の方には職員が複数で対応している。浴室は窓が大きく、手すりやシャワーチェアが設置され、自立して安全に入浴出来るよう、配慮している。入浴が困難になり、近くにある同法人のデイサービスの機械浴を利用する方もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	本人の意思に任せている。意思 を表せない利用者には、様子観 察をして必要に応じた対応をし ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	薬の説明書をカードックスにフ ァイルし、一人一人の薬の目的 や副作用を理解するよう努めて いる。薬剤師による研修を受け 、随時相談・指導を受けられる ようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	食事作りへの参加等、一人一人 の力を活かした役割を持っている 。行事・レクリエーション・音 楽鑑賞・散歩等で気分転換を 図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している	散歩・買い物等外へ出掛けられ るよう支援に努めている。地域 行事への参加等、家族会・運営 推進会議等で協力を要請してい る。	車椅子の利用者は事業所内で 外気浴をしている。スーパーや 薬局には職員が付き添っていく 。行事では、花見、七夕、コス モス畑や初詣等に出かけ、季節 を楽しめるような外出もしてい る。盆踊り大会を夜間に行なっ た時には運営推進会議などを通 じて家族にも協力を依頼した。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している	本人が必要とする物を聞き入れ 一緒に買い物に行っている。お 金は、職員が管理しているが、 力に応じて小遣いを管理してい る方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人・友人からの電話を取り次いだり、家族等の理解の下、本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を行っている。温度・湿度は朝・夕、確認している。 リビングのテーブルの位置等、状況に応じて工夫をしている。	リビングは日当たりがよく明るい。また、利用者がくつろげるようフロアに畳を敷き、テレビやカレンダー、生花が飾られている。廊下や階段の壁には、家族が完成させたジグソーパズルや近所の人が描いた絵、利用者の塗り絵、行事の写真などが飾られている。湿度計で測定した数値を掲示して加湿器や濡れタオルで、湿度を保ち感染症予防に取り組んでいる。また、歯ブラシやコップ等は戸棚に収納している。トイレは間口が広く、車椅子でも出入りが容易にでき、廊下と浴室の2方向から利用できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所、気の合った者同士が過ごせる様、ソファ・椅子等を置いている。外ベンチ等、自由に使っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、本人の好みの家具・品物を家族と相談しながら配置している。	居室にはエアコン、照明、クローゼットが備え付けられている。ベッド、自宅で使用していたタンス等の家具の他、仏壇、テレビ、ぬいぐるみ等を持ち込み、その人らしい部屋になっている。ベッドを利用している方もいるが、畳を敷き布団を使っている方もいる。各居室には感染症予防のため、加湿器を設置している。リネン類は週一回、職員が交換している。	

55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に応じた寝具（ベット・布団）、家具等の設置を行っている。		
----	--	---	--	--

事業所名	グループホーム苑平塚事業所
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の申し送り時に、復唱している。また、名札の裏に記載し、いつも確認できるよう配慮している。職場同志でも、常日頃から理念に基づき、笑顔で穏やかに過ごせるよう実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物・散歩時等でお互い挨拶を交わしている。公民館行事・自治会行事・子供みまもり隊等、積極的に参加させて頂いている。また、近隣の幼稚園・保育園との交流・中学校の職場体験の受け入れをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	道路に面して入りやすい併設の居宅支援事業所を窓口にして、地域の方が見学・遊びに来られ案内している。一緒にお茶を飲んで頂く等、お話をして頂く機会がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1度開催、活動報告をしている。構成員と意見交換を行い、災害時の連携・地域との連携等、今後の苑のあり方等を検討、サービス向上に努めている。		

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平塚市介護相談員を月1回受け入れている。社会福祉協議会主催のグループホーム連絡会に参加している。（介護保険課の方同席）		
---	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。日中は、玄関を開放し、自由に出入りしている。緊急時、一時的に施錠を行う事があるが速やかに開放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自己点検シートで確認、特に精神的虐待にならないよう、ユニット会議・カンファレンス等で話し合い言葉がけには注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見人養成講座受講生の体験活動の受け入れをしている。権利擁護事業の制度（1名）、成年後見人制度（1名）活用しているが、すべての職員が理解するには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、ご家族・本人に説明し、理解・納得を図っている。改定等の際は、十分な説明を行い同意書を頂いている。		

10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を聞き入れ出来る限り毎日の生活に反映させている。外部評価での家族アンケート結果をユニット会議で話し合った。平塚市介護相談員を月1回受け入れ、利用者の意見・要望を引き出して頂いている。		
----	---	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面接等を行って意見を聞いている。ユニット会議にて、管理者会議の報告、意見や提案の把握に努めている。		
12	○	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議で職員からの要望・意見等、話し合う機会を設けて給与水準等、労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。ユニット会議で研修報告、介護技術等、研修の振り返りを行っている。		

14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市のグループホーム連絡会の定例会・事例発表会。地域介護システム会議主催の研修会に参加している。		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添い話を聞く場を常に設け、傾聴し共感し、不安を解消するよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や電話により、家族等の不安や要望に耳を傾ける機会を作り信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等の話・介護経過をよく聞き、カンファレンスを行い、ケアプランを立てている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は、本人にして頂き、役割を持って生活し、協力し合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を密にして、電話をする機会を作る、面会に来て頂く、行事に参加して頂く等、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人から家族へ電話を掛けたり、知人・友人へ手紙を出したり、外出したりしている。 行事への協力を依頼して面会の機会を作っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に仲介の立場で接している。落ち着く場所の提供・レクレーションへの参加を通して互いの関係づくりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真を贈ったり、管理者が、面会に行ったり電話等で経過を伺うなどしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望に添える様、様子・好まれる事・趣味等の把握に努めている。また、介護相談員を通して思い・意向を引出す支援をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・利用者との会話から、これまでの暮らしの把握に努め、その人らしい過ごし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の対応・会話等、生活の中で、現状の把握に努めている。変化等が見られた場合は、カンファレンス・ユニット会議・申し送り等で情報交換等を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当者を決め、より細かい観察に努めている。本人・家族の希望を取り入れ、ケアカンファレンスは、全員で行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録・生活チェック表、申し送り等で情報を共有し、実践・介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスの機械浴の利用・デイサービスとの交流、他ユニットとの交流等、必要に応じて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、公民館へ散歩、近隣の花畑等に出掛けている。また、地域のボランティアによる民謡の会を開催している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医療により適切な医療を受けられるよう支援している。状態を医師に報告・状況に応じ家族との連携を取っている。入所前よりのかかりつけ医に受診する場合は、家族が同行し、受診内容は、職員と共有している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師と連携を取り合い支援している。月2回、看護師の出勤があり、情報を伝え、相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、サマリーを作成し情報交換を行っている。また、お見舞い時・退院指導に同席させて頂く等、病院側から情報を提供して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についての家族・主治医・管理者で話し合い同意書を頂いている。主治医・家族と連携を密にし、管理者・看護師を中心に対応を検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異物除去法等、勉強会を開催、個々に救急法等の講習会に参加しているが、全ての職員が実践力を身に付けるまでには、至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	苑内での避難訓練は、年2回、実施している。地域との連携を運営会議の際、話し合い、避難訓練に参加して頂いている。災害対策委員会を開催し、対策を検討している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に努力はしているが、完全ではない、職員間で注意しあい、声掛けの工夫が必要と思われる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを工夫し、本人の意思を引き出せるよう、自己決定できるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康管理・安全・安楽の確保に留意し、本人のペースを大切に对应しているが、十分ではない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ、本人の希望に沿って、支援している。清潔保持が出来る様、声掛けの工夫をし、更衣の促し、見守り・介助等、行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いせずに声掛けを工夫し、利用者と職員と一緒に準備・片付けを行っている。また、お礼の言葉を必ず掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を表にまとめている。水分量の少ない方等、好みの飲み物を提供、一人ひとりの状態を把握、記録し統一した支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り・介助等、本人の力に応じた対応を行っている 歯科医の訪問医療を受け、口腔管理を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付け、排泄能力・排泄パターンを把握している。必要に応じ、声掛け・誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳・乳製品を取り入れ、食後、ヨーグルトを提供している。個々の状況に応じて、オリゴ糖を使用する・水分を多めに促す、運動・散歩の働きかけを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日・入浴時間を決めず、出来るだけ、希望に応じて入浴が出来る様、配慮している。拒否のある方には無理に勧めず、声掛けの工夫・タイミングに合わせて支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思に任せている。意思を表せない利用者には、様子観察をして必要に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカードックスにファイルし、一人一人の薬の目的や副作用を理解するよう努めている。薬剤師による研修を受け、随時相談・指導を受けられるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りへの参加等、一人一人の力を活かした役割を持っている。行事・レクリエーション・音楽鑑賞・散歩等で気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物等外へ出掛けられるよう支援に努めている。地域行事への参加等、家族会・運営推進会議等で協力を要請している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が必要とする物を聞き入れ一緒に買い物に行っている。お金は、職員が管理しているが、力に応じて小遣いを管理している方もいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人・友人からの電話を取り次いだり、家族等の理解の下、本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を行っている。温度・湿度は朝・夕、確認している。 リビングのテーブルの位置等、状況に応じて工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所、気の合った者同士が過ごせる様、ソファ・椅子等を置いている。外ベンチ等、自由に使っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、本人の好みの家具・品物を家族と相談しながら配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に応じた寝具（ベット・布団）、家具等の設置を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 悠悠苑
平塚事業所

作成日 平成25年 4月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画に応じた記録の記載方法について、効率的な記録方法の検討を行う。	介護計画の記録が効率的に記録出来る。	書式の工夫をし、簡潔に効率的に記録を行う。	6か月
2	35	年2回、避難訓練を行っているが、職員全員が昼夜問わず利用者の避難方法を身に付けるに至っていない。	職員全員が昼夜問わず利用者の避難方法を身に付ける事が出来る。	災害対策委員会を中心に誘導方法を検討し、定期的に訓練を行い、防災意識を高める。	1年間
3	35	地域住民の避難訓練への参加は、ほとんど得られていないが、問い合わせ等、関心を持って頂いている。	災害時、地域との協力体制を築く事が出来る。	地域との交流を深める事が出来るよう、地域行事への参加・苑行事への参加を呼びかける。避難訓練参加への呼びかけを運営推進会議にて地域住民・近隣者へ継続的に行う。	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。